

○大正十三年一月十六日役員會を開き中原會長中山丹羽の兩副會長池田稻垣上野川上原伴の各常議員井上丹治兩主事廣井古川兩前會長金森編輯委員長川口編輯委員出席中原會長議長席に着き次ノ事項を決議せり

- 一 皇太子殿下御成婚に付工學會に於て會員たる各學會を代表し賀表並賀牋奉呈の管本會としては別に之を奉呈せざること
- 二 帝都復興聯合協議會主催者として加入したること及右に對し本會代表者として會員岡野昇君同丹羽鋤彦君同比田孝一君を推薦したることを承認すると
- 三 大正十二年十二月三日開催の役員會の決議に基き本會に震災調査委員會を設け左記諸氏に右調査委員を囑託すること

## 委員長

廣井 勇君

## 委員

青山 士君  
阿部 美樹志君  
稻垣 兵太郎君  
内田 祥三君  
樺島 正義君  
久保田 敬一君  
眞田 秀吉君  
鈴木 義多郎君  
高田 景君  
立川 大市君  
田村 與吉君  
丹治 經三君  
那須 章彌君  
能見 光男君  
伴 宜君

安藝 杏一君  
雨宮 弘一君  
稻葉 愿君  
大河戸 宗治君  
河口 協介君  
後藤 運平君  
清水 一徳君  
杉浦 宗三郎君  
竹内 季一君  
太刀川 平治君  
高橋 三郎君  
手塚 善君  
那波 光雄君  
萩原 俊一君  
平山 復二郎君

朝倉 政次郎君  
石川 源二君  
乾 慶藏君  
小川 織三君  
神原 信一郎君  
彭城 嘉津馬君  
白石 多士良君  
曾山 親民君  
竹村 全之君  
田中 豊君  
高橋 甚也君  
内藤 多仲君  
中野 昇君  
原 全路君  
藤田 周造君

藤 宮 惟 一 君	福 田 重 義 君	牧 彦 七 君
牧 野 雅 樂 之 丞 君	眞 島 健 三 郎 君	溝 口 三 始 君
茂 庭 忠 次 郎 君	物 部 長 穂 君	百 瀬 國 三 郎 君
森 忠 藏 君	山 田 龜 治 君	山 内 靜 夫 君
谷 井 陽 之 助 君	渡 邊 英 保 君	渡 邊 扶 君

幹 事

井 上 秀 二 君 沼 田 政 矩 君

四高速度鐵道調査委員會を設け委員長に會員古川阪次郎君を推し委員の推薦は會長と委員長と協議の上之を行ふこと

五大正十二年度收支豫算の流用を承認すること

六大正十二年度損益計算書を承認すること

七大正十二年度事業及決算報告書を承認すること

八會員高西敬義君の繫船岸壁の構造及之が築設に關する構造上の論文に對し大正十二年度第一土木賞牌を贈呈すること

其他會務に關する事項

土木學會定時總會議事概要

大正十三年一月十九日午後四時麴町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て定時總會を開く出席會員八十一名准員十名學生員五名合計九十六名にして會長中原貞三郎君議長席に着き開會を告ぐると共に主事丹治經三君大正十二年度事業報告を同井上秀二君同年度收支決算並に貸借對照表を代讀し何れも出席會員の承認を得たり

右報告の全文左の如し

大 正 十 二 年 土 木 學 會 事 業 報 告

理 事 中 原 貞 三 郎

理 事 中 山 秀 三 郎

理 事 丹 羽 鋤 彦

大正十二年度中事業の概要を左に報告す

一 會 合

大正十二年一月二十日午後三時東京市麴町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會

に於て定時總會を開く出席者會員百五名准員十五名合計百二十名にして會長古川阪次郎君議長席に着き事業及決算の報告を爲し次て土木學會規則中改正を決議し會長の講演あり續て役員の改選を爲したり

右の外同年度中の會合は役員會十三回(内臨時役員會三回)講演會三回編輯委員會十回土木學會帝都復興調査委員會七回金属材料抗張試験片特別委員會五回土木學會及帝國鐵道協會聯合大阪市内外高速交通機關調査委員會一回土木學會及帝國鐵道協會聯合東京及橫濱附近交通運輸調査委員會特別委員會五回並土木學會東京市政調査會工政會都市研究會及建築學會聯合主催に係る帝都復興聯合協議會三回なり

## 二 役員改選職員就任及委員推薦

定款第十一條に依り會長古川阪次郎君副會長吉村長策君常議員安藝杏一君同大村鈎太郎君同中川吉造君同牧彦七君退任に付き前項定時總會に於て改選を行ひ當選したる役員の名下の如し

會 長	中 原 貞 三 郎君
副 會 長	丹 羽 勳 彦君
常 議 員	池 田 圓 男君
同	稻 垣 兵 太 郎君
同	川 上 浩 二 郎君
同	伴 宜君

同年一月二十五日規則第二十五條に依り職員の推選を行ひ左の通就任せり

主 事	井 上 秀 二君
同	生 野 團 六君
編輯委員長	金 森 敏 太 郎君
編輯委員	衣 斐 清 香君
同	小 野 諒 兄君
同	黒 河 内 四 郎君
同	牧 野 雅 樂 之 函君
同	森 忠 藏君
同	山 口 昇君

同年一月十六日前常議員故富田保一郎君の後任として會員那波光雄君を又同年

四月二十日編輯委員小野諒兄君地方へ轉任の爲辭任に付其後任として會員川口愛太郎君を推薦せり

同年五月十日編輯委員衣斐清香君地方に轉任の爲辭任せり

同年十月十日主事生野團六君地方に轉任の爲辭任に付其後任として會員丹治經三君を推薦せり

同年十月十四日土木學會帝都復興調査委員會を設け右委員として會員中より左の通推薦せり

委 員 長	那 波 光 雄君
委 員	池 田 圓 男君
同	伊 藤 常 夫君
同	稻 垣 兵 太 郎君
同	井 上 範君
同	金 森 敏 太 郎君
同	川 上 浩 二 郎君
同	川 口 愛 太 郎君
同	竹 内 季 一君
同	田 村 與 吉君
同	伴 宜君
同	原 全 路君
同	牧 野 雅 樂 之 丞君

同年十二月八日土木學會東京市政調査會工政會都市研究會及建築學會聯合主催に係る帝都復興聯合協議會土木學會代表者として會員岡野昇君同丹羽鋤彦君同比田孝一君を推薦せり

### 三 土木學會帝都復興調査委員會設置

同年九月一日關東地方に起りたる震災に鑑み本會は東京及横濱復興計畫に關する調査委員會を設け土木學會帝都復興調査委員會の名稱を付し兩市及其の附近に於ける鐵道、高速度交通機關、道路、公園及廣場、運河及港灣其の他に就き調査並審議を遂げ意見書を作成し内閣總理大臣及内務、鐵道、遞信の各大臣並帝國復興院總裁に建議し尙東京府知事、神奈川縣知事及東京横濱兩市長に之を提出せり

### 四 帝都復興聯合協議會開催

帝都復興計畫に關し各専門の方面より斯道研究者會合し充分なる意見の交換を行ひ以て適當の成案を作り之を當局に建議するは時宜に適したる措置なりとし東京市政調査會より土木學會も其の主催者として賛同方照會ありたるを以て本會に於ても其の趣旨に賛同し同年十二月八日土木學會東京市政調査會、工政會、都市研究會及建築學會主催となり都下の各學會協會等より各三名以内の代表者を選出し帝都復興聯合協議會を組織し政府の公表せる帝都復興計畫案及事業費豫算案等に就き慎重審議の結果意見書を作成し之が實行方を當局に建議せり

### 五 調 査 事 項

同年度中に於ける調査事項は前二項に記載せるものの外左の通なり

一大正十一年十月組織せる金屬材料抗張試験片特別委員會は引續き調査中の處大正十二年四月調査を完了したるを以て工業品規格統一調査會に對し回答を發したり

一帝國鐵道協會と本會と聯合の下に大正九年二月組織せる大阪市内外高速交通機關に關する調査會は引續き調査中の處大正十二年三月調査を完了せり

一帝國鐵道協會と本會と聯合の下に大正九年十月組織せる東京及横濱附近交通運輸調査委員會は引續き調査中の處大正十二年七月調査を完了せり

### 六 會 誌 の 發 行

同年度中會誌第九卷一號より第四號迄發行したるも震災に因り印刷所焼夫の爲め第五號以下は之を延期し合本として發行することとせり

### 七 坂田常議員及石丸前常議員の逝去

常議員坂田貞明君は同年九月六日前常議員石丸重美君は同年十月十九日逝去に付本會に於ては弔詞及花環を靈前に供へたり

### 八 登 記 事 項

同年一月二十日の定時總會に於ける理事の改選及資産の總額を金五萬九千九百拾壹圓參拾參錢と變更の件は同月二十九日其の登記を了せり

### 九 土 木 賞 牌 贈 與

會員森垣龜一郎君の神戸税關海陸運輸連絡に關する論文に對し大正十一年度第一土木賞牌を贈呈せり

### 十 視 察 旅 行

同年五月五、六日の兩日に互り内務省直轄利根川下流改修工事及銚子築港の視

察旅行を爲し會員三十三名の参加ありたり

十一 寄附金の受領

同年二月十日會員故富田保一郎君の嗣子富田武夫氏より本會基金として金五百圓を寄附申込ありたるに付之を受領し故富田博士記念基金の名稱を附し本會基金に編入せり又同年十月十四日會員故西尾虎太郎君、嗣子西尾辰吉氏より本會基金として金壹百圓を寄附申込ありたるに付之を受領し本會基金に編入せり

十二 會員數

同年度中の入會者は會員二十八名(内准員ヨリ轉シタル者十八名ヲ含ム)准員三百十九名(内學生員ヨリ轉シタル者五十九名ヲ含ム)學生員八十八名合計二百五十五名退會者は會員二名の准員二十四名學生員三十名合計五十六名死亡者は會員十九名准員十名學生員二名合計三十一名にして大正十二年十二月末日に於ける現在數は會員七百五十名准員千六百二名學生員二百七十一名合計二千六百二十三名なり

大正十二年度土木學會決算報告

理事 中原貞三郎  
 理事 中山秀三郎  
 理事 丹羽鋤彦

收支計算

收入之部

一、會費	22,069.14
内 會員會費	8,366.99
准員會費	12,369.94
學生員會費	1,332.21
一、利子及雜收入	1,816.21
内 預金利子	49.10
基金利子	1,578.57
雜收入	188.54
一、入會金	946.00
内 會員入會金	195.00
准員入會金	575.00
學生員入會金	176.00

會 務

一、會費一時納付金	1,150.00
一、基金より借入	252.77
合 計	<b>26,234.12</b>

支 出 之 部

一、事 務 費	12,066.13
内 通 信 費	216.08
俸給諸給手当	6,285.01
事務室及會場費	1,579.50
消耗品費	173.06
諸印刷費	603.71
振替貯金料金	489.96
雜 費	1,904.71
會 費	200.00
帝都復興調査費	614.10
一、會 誌 費	12,262.79
内 會 誌 印 刷 費	10,504.28
速 記 費	98.00
翻 譯 費	79.50
製 圖 費	75.10
運 送 費	1,242.69
雜 費	263.22
一、圖 書 及 備 品 費	755.20
一、基金の編入金計	1,150.00
合 計	<b>26,234.12</b>

會費一時納付金

◎基 金 計 算

◎收 入 之 部

一、前 年 度 繰 越 金	54,733.48
内 古 市 兩 博 士 遷 曆 記 念 基 金	15,000.000
故 白 石 博 士 記 念 基 金	13,550.00
故 山 崎 博 士 記 念 基 金	1,500.00

廣井博士土木賞牌基金	425.00	
原田博士基金	2,547.60	
廣井博士還曆記念基金	5,950.00	
小川博士還曆記念基金	1,000.00	
基金	14,300.88	
一、基金に編入金	1,150.00	
一、故西尾工學士記念基金寄付	100.00	本會基金=編入
一、故富田博士記念基金寄付	500.00	
一、基金利子收入	2,367.87	
<sub>内</sub> 古市 <sub>  </sub> 沖野 兩博士基金利子	832.26	公債及貯金
故白石博士基金利子	783.09	同
故山崎博士基金利子	83.56	同
土木賞牌基金利子	25.00	公債利子
原田博士基金利子	150.00	同
廣井博士基金利子	350.00	同
小川博士基金利子	14.10	當座
基金利子	129.86	公債及貯金
合 計	58,851.35	

## ◎支出之部

一、經常費に組入金	1,578.57
一、翌年度へ繰越金	57,272.78
<sub>内</sub> 古市 <sub>  </sub> 沖野 兩博士基金	15,877.40
故白石博士基金	13,611.03
故山崎博士基金	1,587.84
土木賞牌基金	433.42
原田博士基金	2,597.60
廣井博士基金	6,066.66
小川博士基金	1,004.70
故富田博士基金	500.00
基金	15,594.13



合	計	58,851.35	
	◎繰越金内訳		
一、各基金繰越高		57,272.78	
内有價證券		41,543.22	五分利公債額面四萬七千五拾圓
當座預金		1,327.02	三菱銀行
郵便貯金		1,806.90	
振替貯金		1,549.32	
現金		202.13	
經常費ニ貸金		10,844.19	七年度1,548.25 八年度1,779.21 九年度2,909.03 十年度3,954.80 十一年度310.08 十二年度252.77

◎ 貸借對照表 (大正十二年十二月卅一日)

貸方 (負債の部)		借方 (資産の部)	
吉市兩博士還曆記念基金	15,877.40	圖書及備品	2,531.86
故白石博士記念基金	13,611.03	經常費ニ貸金	20,844.19
故山崎博士記念基金	1,587.84	未収入金	12,928.55
廣井博士土木賞牌基金	433.42	假拂金	100.00
原田博士基金	2,597.60	有價證券	41,543.22
廣井博士還曆記念基金	6,066.68	當座預金	1,327.02
小川博士還曆記念基金	1,004.70	郵便貯金	1,806.90
故富田博士記念基金	500.00	振替貯金	1,549.32
基金	15,594.13	現金	202.13
翌年度へ繰越金	15,560.41		
計	72,833.19	計	72,833.19

財 産 目 録

貸借對照表資産の部と同一に付省略す

次に役員の変更を施行し會長の指名せる開票立會委員青山士君黒河内四郎君宮長平作君は投票紙百九十四通の開票を爲したり當選役員及十一票(常議員は二十六票)以上の得點者左の如し

會 長

八九票 (當 選)

中 山 秀 三 郎 君

四五票	杉浦宗三郎君
三〇票	中島銳治君
副會長	
六四票 (當選)	岡野昇君
五三票	杉浦宗三郎君
一一票	柴田睦作君
常議員	
八九票 (當選)	八田嘉明君
六九票 (當選)	後藤佐彦君
五四票 (當選)	太田圓三君
五四票 (當選)	竹内季一君
五一票	大河戸宗治君
四九票	眞田秀吉君
四二票	藏重哲三君
三三票	直木倫太郎君
二六票	金森歟太郎君

前記役員改選期票中に會長講演あり同五時二十五分閉會せり續て同六時半より有志晚餐會を開き七十一名の出席者あり盛會裡に同八時半散會せり

同年同月二十九日役員會を開き中山會長丹羽副會長池田、稻垣、太田、川上、後藤、竹内、八田、伴の各常議員野村、古市、古川、廣井の各前會長井上、丹治兩主事出席左記事項を決議せり

一編輯委員黒河内四郎君、山口昇君、森忠藏君任期満了と他に一名の缺員ありたるに付其後任として會員野口寅之助君、同平井喜久松君、同谷井陽之助君同山崎匡輔君を推薦し其他の職員は全部引續き前任者を推薦すること

其他會務に關する事項

○同年一月十六日開催の役員會の決議に基き本會に高速度鐵道調査委員會を設け左記諸氏に右調査委員を囑託すること

一委員長

古川 阪次郎君

委員

阿部美樹志君	伊藤常夫君	池田圓男君
大河戸宗治君	太田圓三君	草間偉君
後藤佐彦君	白石多士良君	會山親民君
竹内季一君	田中豊君	丹治經三君
手塚善君	那波光雄君	西勝造君
八田嘉明君	伴宜君	古川淳三君
物部長穂君	山崎匡輔君	山田龜治君

幹 事

沼田政矩君

○同年同月二十五日東京區裁判所に於て理事の改選及資産の總額變更の登記を了せり

○同年同月二十六日 皇太子殿下御成婚に際し工學會理事長男爵古市公威氏工學會會員たる各學會を代表し左記賀表及賀箋を捧呈せり

(賀 表)

工學會理事長男爵古市公威誠恐惶謹みて

敎聖文武天皇陛下に奉す伏して惟みるに

陛下宸極に御し給ひしより爰に十有餘載皇化日に躋り國運月に興る今茲吉辰を撰ひ皇太子殿下結婚の大禮を擧げ給ふ恭しく惟みるに

皇太子殿下英明の天資を以て大政を攝行し聖謨を恢張し給ひ隆隆たる威徳天下を覆ふ

皇太子妃殿下竹園の貴胤を以て令聞淑徳一世に高し今儲宮に入り給ひ鳳鸞長へに偕和し鍾鼓嚴かに節奏す帝國全土の臣民齊しく皇室の繁榮を仰き國運の隆昌を想ひ歡抃措く所を知らず工學會は日本鑛業會日本鐵鋼協會土木學會火兵學會煖房冷蔵協會造船協會建築學會工業化學會電氣學會電信電話學會機械學會照明學會等十二の學會及協會を以て成立し夙に恩眷を忝うし各其分に依り帝國の文化に資し聖恩の萬一に報答せんことを期せり今や聖世に遭遇し斯の盛事を瞻仰す何の慶幸か之に若かん爰に恭しく賀表を捧げ肅みて鄙衷を聞す臣古市公威誠恐誠惶頓首頓首

大正十三年一月二十六日

工學會理事長從三位勳一等男爵 古 市 公 威

## (賀 牋)

工學會理事長男爵 臣古市公威誠恐誠惶謹みて言す伏して惟みるに  
皇太子殿下天縱聰明英達攝政の重寄にましまして聖猷を恢弘し給ひ嚮に遠く海  
に航して遐方の文物を觀友邦の緝睦を敦うし給ひ郁郁たる令聞中外に敷けり今  
茲昌辰を卜し結婚の大禮に膺らせ給ふ  
皇太子妃殿下貞淑端麗德音夙に高し今儲宮に入り給ひ鳳鸞長へに偕和し寔に舜  
倫の大本を立て給ふ帝國全土の臣民斯の盛儀を瞻仰して歡喜何ぞ極らん工學會  
は日本鑛業會日本鐵鋼協會土木學會火兵學會煖房冷蔵協會造船協會建築學會工  
業化學會電氣學會電信電話學會機械學會照明學會等十二の學會及び協會を以て  
成立し各其分に依りて帝國の文化に資せんことを努む今斯の盛事に遭遇して喜  
躍抃舞の至りに堪へず爰に恭しく賀箋を捧げ肅みて微忱を表す 臣古市公威誠恐  
誠惶謹みて言す

大正十三年一月二十六日

工學會理事長從三位勳一等男爵 古 市 公 威

○同年同月三十一日大正十二年度事業報告、收支決算表、貸借對照表、會員數並  
に理事改選等に関し文部大臣及東京府知事に届出を爲せり

## 新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配付致すべきに付其り以前の會誌御希望の場合には一部に付左記金額振替口座東京一六八二八に拂込用紙通信欄に其旨記入し請求せられたし

### 殘 部 内 譯

第五卷一號二號	一 部 金 壹 圓
第六卷三號六號	同
第七卷一號二號三號四號五號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第八卷一號二號三號	同 金 貳 圓
第九卷一號二號三號	同 金 貳 圓
第九卷五、六號	同 金 貳 圓
東京市内外交通に關する調査書殘部あり	金 參 圓

### 本會會員轉居又は旅行の場合の注意

各員の宿所の不明なるときは會誌の配付を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費の支拂には差支なき様御配慮相成たし

### 會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は左表の通りにして本會より發する振替集金に對し必ず御支拂の事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立共支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に（拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事）御拂込相成度尙整理の都合有之候に付會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相成たし

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月 徵 收	自五月至八月 第二期分六月 徵 收	自九月至十二月 第三期分十月 徵 收
會 員	金 拾 八 圓	金 六 圓	金 六 圓	金 六 圓
准 員	金 拾 貳 圓	金 四 圓	金 四 圓	金 四 圓
學 生 員	金 七 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢

新に入會したるものは月割計算とし入會の翌月集金書を發す

### 會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金集金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して放なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付をも停止せらるに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

### 會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年二月四月六月八月十月十二月（印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり）に發行し漏なく配付すべきに付翌月末頃未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月経過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし

領收報告 自大正十二年十一月十六日 間受付分(受付順)  
至大正十三年 一月十五日

會員大正十一年度第一期分會費

金四圓五拾錢宛 齋 藤 固君 田 口 俊 一君  
 會員大正十一年度第二期分會費  
 金四圓五拾錢宛 齋 藤 固君 佐 藤 俊 久君  
 會員大正十一年度第三期分會費  
 金四圓五拾錢宛 齋 藤 固君 相 澤 時 正君 田 口 俊 一君  
 會員大正十二年度第一期分會費

金 六 圓 宛 吉 山 盛君 武 和 三 耶君 加 賀 種 二君  
 齋 藤 固君 與 中 喜 代 一君 佐 藤 俊 久君 山 東 兵 藏君  
 佐 原 辰 雄君 上 山 善 司君 中 村 謙 介君 田 口 俊 一君  
 小 澤 義 平君 今 村 眞 護 喜君 藤 村 蘆君  
 金壹圓五拾錢 清 水 賢 雄君  
 會員大正十二年度第二期分會費

金 六 圓 宛 竿 田 秀 靜君 吉 山 盛君 齋 藤 固君  
 清 水 賢 雄君 吉 田 直 直君 山 口 義 彦君 佐 藤 俊 久君  
 木 津 正 治君 藤 重 哲 三君 土 肥 憲 二 耶君 石 澤 寬 志君  
 山 東 兵 藏君 伊 藤 長 右 衛 門 君 佐 原 辰 雄君 近 藤 皎 君  
 齋 藤 孝 二 耶君 石 阪 二 耶君 中 村 謙 介君 小 澤 義 平君  
 村 越 三 四 耶君 藤 村 蘆君

會員大正十二年度第三期分會費  
 金 六 圓 宛 吉 町 太 耶 一君 松 田 文 次君 森 井 健 介君  
 內 藤 定 靜君 大 串 榮 太 耶君 田 村 啓 三君 西 門 善 三 耶君  
 宮 內 義 則君 並 川 熊 次 耶君 寬 城 治 君 池 田 勝 藏 君  
 田 中 惠 君 山 內 喜 之 助 君 吉 田 章 次 君 吉 富 義 助 君  
 堅 田 務 君 坂 本 丹 治 君 佐 藤 三 四 耶君 遠 藤 金 市 君  
 三 根 奇 能 夫 君 清 水 賢 雄 君 後 藤 茂 君 二 見 鏡 三 耶君  
 上 村 爲 人 君 花 井 又 太 耶君 青 木 勇 君 中 隈 伊 勢 吉 君  
 藏 重 哲 三 君 正 子 重 三 君 戶 谷 亥 名 藏 君 澄 田 勘 敏 作 君  
 中 島 健 吉 君 中 谷 郁 三 耶君 吉 田 德 次 耶君 長 崎 敏 實 吉 君  
 前 田 興 市 君 渡 邊 時 敏 君 井 上 幸 一 君 野 方 實 吉 君  
 白 井 定 民 君 市 村 定 君 三 浦 矩 明 君 齋 藤 孝 二 耶君  
 神 原 信 一 耶君 佐 伯 利 吉 君 田 井 九 一 君 小 澤 義 平 君  
 中 村 猪 市 君 藤 村 蘆 君 小 宮 甲 四 耶君 朝 倉 勳 君  
 與 中 喜 代 一 君

金四圓五拾錢 小 阪 拓 次 耶君  
 金 四 圓 宛 鴨 居 啓 三 耶君 西 田 敏 夫 君  
 金壹圓五拾錢宛 高 木 剛 三君 熊 谷 直 道 君  
 會員大正十三年度第一期分會費  
 金 六 圓 宛 渡 邊 時 敏 君 齋 藤 孝 二 耶君  
 金四圓五拾錢 清 水 賢 雄君

准員大正十一年度第一期分會費  
 金 參 圓 宛 成 瀬 喬 君 砂 治 國 良 君 大 上 信 一 君  
 准員大正十一年度第二期分會費

金 參 圓 成 瀨 喬君  
准員大正十一年度第三期分會費

金 參 圓 宛 伊 藤 橫 治 郎君  
齋 藤 四 郎君  
准員大正十二年度第一期分會費

金 四 圓 宛 成 瀨 喬君  
久 米 初 治君 高 野 慶 次 郎君  
勝 呂 正 吾君 小 林 準 一 君  
村 田 與 次 郎君 小 久 保 小 四郎君  
大 塚 稔君 鈴 木 喜 一 郎君  
伊 藤 百 世君 志 谷 百 中君  
金 壹 圓 宛 山 下 清 吉君  
青 木 金 作君  
金 貳 圓 森 永 鐵 次

准員大正十二年度第二期分會費

金 四 圓 宛 鈴 木 千 代 藏君  
百 瀨 泰 治 郎君 古 賀 義 人 君  
濱 田 文 路 二君 西 川 總 一 君  
村 尾 伴 一君 鬼 海 治 三 郎君  
川 野 通 之君 砂 治 國 良君  
小 倉 兼 友君 山 下 清 吉君  
高 野 慶 次 郎君 佐 藤 武 安 三 君  
秋 田 重 季君 山 田 藤 幸 三 君  
瀧 淵 實 烈君 齋 藤 鈴 木 三 郎君  
武 田 惣 一 郎君 伊 藤 橫 次 郎君  
速 水 龍 五 郎君 伊 藤 橋 茂 藏君  
矢 賀 部 狷 介君 川 野 種 藏君  
長 屋 照 藏君 川 野 種 藏君  
榊 井 照 藏君 世 古 河 眞 君  
福 田 時 太 郎君 森 林 紀 彦君  
辻 野 重 三 郎君 松 浦 康 萬 吉君  
中 高 木 義 照君 河 武 藤 於 菟君  
山 木 極 二 郎君 薄 井 藤 田 儔君  
木 谷 口 廣 三 君 小 乾 市 太 郎君  
岩 崎 憲 吾君 堤 齋 藤 利 彦君  
柳 田 癸 巳 夫君 小 林 眞 常 次 郎君  
萩 野 眞 常 次 郎君 高 崎 內 勇君

糸 永 雄 策君

八 尋 清 彦君

岡 田 博 智君  
河 野 誠 君  
柏 谷 鴻 次 郎君  
伏 島 信 九 郎君  
村 山 末 男君  
麻 生 幹 雄君  
山 田 安 三君

砂 治 國 良君  
中 林 敏 男君  
大 上 信 一 君  
劉 仁 變 君  
八 尋 清 彦君  
黑 田 愛 之 助君  
松 田 澄 太君

梅 澤 景 秀君  
近 藤 伊 作君  
永 田 光 之 助君  
中 原 武 君  
高 桑 敬 二 君  
久 米 初 治君  
姉 川 繁 勝 君  
中 山 勝 一 君  
紀 成 亮 中 君  
山 崎 亮 三 君  
神 邊 俊 太 君  
橫 井 增 治君  
吉 田 嘉 六 君  
和 幸 太 郎君  
森 堀 尾 豐 熊 君  
鈴 木 川 健 輔 君  
瀨 野 嘉 一 郎君  
藤 森 永 鐵 治 君  
本 多 又 太 郎君  
岸 川 俊 輔 君  
高 橋 信 三 郎君  
小 合 虎 馬 二 君  
安 藏 善 之 輔 君  
渡 邊 平 三 郎君  
石 原 新 吉君

長 澤 忠 郎君  
大 橋 安 太 郎君  
谷 口 源 八 君  
岡 田 博 智君  
田 奈 部 庄 吉君  
富 田 傳 吾 君  
金子 源 一 郎君  
安 東 一 功 君  
中 川 一 美 君  
工 藤 茂 君  
叶 中 勸 君  
飯 田 龍 左 衛 門 君  
堀 內 滿 三 君  
大 上 信 一 君  
喜 多 村 喬 君  
南 弘 毅 君  
正 木 吉 太 郎君  
加 藤 興 曾 一 君  
石 井 一 夫 君  
岩 川 亥 之 助 君  
佐 藤 章 吾 君  
劉 仁 變 君  
陳 發 榛 君  
山 本 敏 君  
糸 永 雄 策 君  
菽 原 官 六 君

八尋清彦君  
 伊藤百世君  
 高樋松之助君  
 中川政次郎君  
 郡新一郎君  
 金參園也  
 井浦亥三君  
 金貳圓宛  
 中川安次郎君  
 安達秀男君  
 金壹圓宛  
 久保禎三君  
 青野隆次君

野矢清君  
 松尾愛亮君  
 黑田愛之助君  
 小林節郎君  
 田中正次君  
 金丸廣貞君  
 小川誠耳君  
 中野順太郎君  
 井關正雄君  
 有馬博雄君  
 岡田民一君

佐橋信一君  
 青木金作君  
 鈴木喜一郎君  
 宇田健二郎君  
 坂本昇君  
 郭懷學君  
 助川廣美君  
 奥居亮太郎君  
 杉山毅夫君  
 安井常三君

藤掛清三郎君  
 池田一男君  
 守井正雄君  
 和田清三郎君  
 佐藤幸水君  
 吉田銀二君  
 矢島清君  
 瀧英夫君  
 藤田正美君

准員大正十二年度第三期分

金四圓宛  
 稻葉健三君  
 野矢清君  
 日比野武夫君  
 原壯之君  
 住喜太郎君  
 黑宮富四郎君  
 岡田一壽君  
 太田清君  
 千清葉秀雄君  
 長島忠雄君  
 龜尾喜一郎君  
 柳澤邊季美君  
 海波老政市君  
 大坂田治人君  
 上結城朝一君  
 佐藤義正君  
 左坐小一郎君  
 水高橋和一君  
 小石川清一君  
 越前谷長吉君  
 中野爭珠君

奈良崎平助君  
 熊本喜代司君  
 年光十中君  
 紀成治四郎君  
 荒木俊三君  
 吉田直衛君  
 西本竹吉君  
 平澤福治君  
 鈴木千代藏君  
 白石辰三君  
 折原龍之助君  
 菅原清吉君  
 佐伯芳政君  
 須賀幸登君  
 富野鷹種君  
 木村鴻策君  
 小岡恒介君  
 志戶直道君  
 野瀬藤人君  
 佐藤孝一君  
 野藤聰壽君  
 依清水新吉君  
 有松秀雄君

友松仙藏君  
 阿部林平君  
 上田富君  
 大竹卯八君  
 永井正路君  
 山原清一君  
 柏澤忠三君  
 西々木善八君  
 佐村兵之助君  
 北々和正君  
 千谷新造君  
 關下英治君  
 有服部健一君  
 菅野道鐵君  
 志藤信七君  
 佐高松澄德君  
 高松落合禮君  
 栗白石鐵造君  
 內藤俊雄君  
 大松村良君  
 相澤一馬君  
 田中浩君

乘田廉平君  
 長尾昌平君  
 中富川一美君  
 山本鑾助君  
 土岐秀之助君  
 高木堅護君  
 栗原良輔君  
 岩崎準一郎君  
 田代隆充君  
 本橋二郎君  
 金山敬三君  
 山武井治君  
 千陽勝郎君  
 藤田恒喜君  
 內山文武君  
 山本織太郎君  
 辰野小四郎君  
 堀威未君  
 仲山金守一君  
 高橋克己君  
 後市芳次君  
 小野是直君  
 龍田川大市君





金四圓宛  
 武井外一君  
 阿部貞壽君  
 上田政義君  
 金參圓宛  
 金壹圓宛  
 金貳圓參拾八錢  
 金貳圓宛  
 守屋應次郎

准員大正十三年度第二期分

金四圓宛  
 阿部貞壽君  
 金參圓  
 金貳圓

准員大正十三年度第三期分

金四圓宛  
 金壹圓

學生員大正十一年度三ヶ期分會費

金五圓

學生員大正十一年度第三期分

金壹圓五拾錢

學生員大正十二年度第一期分會費

金貳圓五拾錢宛

中島忠次君

金壹圓貳拾五錢宛

小陳彌一君

金六拾貳錢

學生員大正十二年度第二期分會費

金貳圓五拾錢宛

片岡謙君

中島忠次君

石田啓次郎君

小田金治君

土田喜三君

關川精治君

西村隆雄君

井上禎一君

三宅三郎君

中谷進君

金壹圓八拾七錢宛

岩隈儀一君

金壹圓參拾五錢宛

海老季美君  
 吉田稔男君  
 西川總一郎君  
 山中伊三郎君  
 砂治國良君  
 志道鐵造君  
 郭懷學君  
 安西榮太郎君

海老季美君  
 上田政義君  
 宮崎繁君  
 德永泰人君

落合忠禮君  
 上田政義君

大久保廣君

鈴木清一君

市川恒君

橫田稔君

大久保廣君

黑田呂久三君

稻浦鹿藏君

鈴木清一君

橫田稔君

近藤謙三郎君

一宮友輔君

劉作樞君

藤井莊介君

小林幸治君

見山剛君

浦伊之助君

福井平藏君

小林勇君

張昌熙君

小川誠耳君

宮崎繁君  
 佐藤章吾君  
 溝田秀之助君  
 山內新一君  
 青野隆次君  
 柳田癸巳夫君

落合忠禮君  
 山內新一君

吉田稔男君

片岡謙君

永後熊次郎君

松田俊正君

後藤久吉君

上野長三郎君

藤井雄之助君

岡野幸三郎君

井上清太郎君

福田武雄君

門澤利三君

廣瀬榮次郎君

岡田喜一郎君

權藤濟美君

淺尾基彦君

鈴木基四郎君

藏重長男君

落合忠禮君  
 安達秀男君  
 德永泰人君  
 大塚稔君  
 井關正雄君

藏重長男君

吉田稔男君

阿部貞壽君

鈴木清一君

福田武雄君

市川恒君

黑田呂久三君

德重正雄君

堀越一三君

高凌美君

北條次男君

居川太郎君

內川龍雄君

船木貫時君

佐藤竹夫君

芳井忠夫君

助川廣美君

吉田 釵 二君  
金六拾貳錢宛  
佐野 俊 男君

梅原 孫兵衛君  
井浦 亥 三君  
郭 懷 學君

櫻井 季 男君  
雄川 謙 三君  
宮川 貞 二君

南出 保太郎君  
池田 三 七君

學生員大正十二年度第三期分會費

金貳圓五拾錢宛  
西岡 宏 治君  
直山 實君  
五十子 恭 三君  
稻浦 鹿藏君  
市川 恒君  
土田 喜三 次君  
宮川 貞 二君  
堀田 讓君  
關川 精 治君  
池上 省 吾君  
長田 純 二君  
井宮 和 逸君  
青川 新 藏君  
田中 菊 知君  
梅原 孫兵衛君  
小陳 綱一 郎君  
守田 道 隆君  
雄川 謙 三君  
田中 三 郎君

南出 保太郎君  
沼田 征 矢 雄君  
見山 剛君  
小林 勇君  
後藤 久 吉君  
片岡 謙 榮君  
末松 榮君  
黑田 呂 久 三君  
高橋 辰 雄君  
後藤 昔 秀君  
西崎 忠 吉君  
中村 猛君  
西田 精 一君  
田中 敬 二君  
濱地 辰 助君  
上野 長 三 郎君  
德重 正 雄君  
井上 清 太 郎君  
村上 正 雄君  
安藤 俊 三君  
松本 金 吾君  
津路 嘉 越君

劉 作 樞君  
多 賀 光君  
小川 悅 助君  
富澤 精 司君  
淺尾 基 彦君  
佐野 俊 男君  
門澤 利 三君  
秋山 樵 平君  
島田 義 章君  
喜多山 健 兒君  
佐藤 竹 夫君  
高田 佐 市君  
岡 密君  
中村 孝 雄君  
三村 賴 太郎君  
村上 保 則君  
石田 啓 太 郎君  
藤井 莊 介君  
內川 龍 雄君  
北林 正 孝君  
吉田 季 四 郎君

權藤 濟 美君  
水原 譽 文君  
河津 彦 一君  
谷口 成 之君  
神坂 虎 夫君  
張 昌 熙君  
高 凌 美君  
岩隈 儀 一 郎君  
西村 隆 雄君  
爲田 不 二君  
向井 太 作君  
宮元 確 衛君  
花鳥 義 一君  
宇野 良 平君  
福森 宇 三 郎君  
木莊 秀 一君  
堀越 一 三君  
廣瀬 榮 次 郎君  
尾崎 秀 之君

金壹圓五拾錢  
金貳圓宛

學生員大正十三年度第一期分會費

金貳圓五拾錢宛  
金壹圓八拾八錢  
金五拾錢

市川 恒君  
黑田 呂 久 三君  
西岡 宏 治君

藤井 莊 介君

尾崎 秀 之君

學生員大正十三年度第二期分會費

金貳圓五拾錢

尾崎 秀 之君

學生員大正十三年度第三期分會費

金五拾錢

尾崎 秀 之君

工 學 會 聯 合 主 催  
帝 國 鐵 道 協 會

## 金屬材料研究所第三回講演錄

(書名一鐵及び鋼の研究 第三卷)

實費郵稅共金參五拾錢也

右今般出來候に付實費頒布御申込の諸君は至急右代金本會(振替貯金口座東京五〇五五番)へ御拂込被下度本會よりは着金の順序に依りて送本可致候此段御通知に代へ廣告致候也

大正十三年四月

東京市麴町區丸ノ内仲通り十三號ノ四(八重洲町壹丁目壹番地)

會 禰 中 條 建 築 事 務 所 內

## 工 學 會 假 事 務 所

### 講 演 錄 要 目

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 一、X線より見たる鐵鋼の組織と最新鐵炭素系の状態圖 | 理學博士 本 多 光 太 郎君  |
| 一、青銅の状态圖                  | 工 學 士 今 井 弘君     |
| 一、固體の粘性係數                 | 理學博士 本 多 光 太 郎君  |
| 一、鑄物に現はるゝ齒狀組織             | 理學博士 石 原 寅 次 郎君  |
| 一、輕合金の研究                  | 理學博士 本 多 光 太 郎君  |
| 一、鍛 鍊 溫 度                 | 理學博士 本 多 光 太 郎君  |
| 一、鑄物 の 研 究                | 工 學 士 濱 住 松 二 郎君 |

以 上